

2016 年度ファカルティ・ディベロップメント活動の状況

<高等教育研究・開発センターの設置>

2013 年 4 月、高等教育に関する調査・研究・提言事業と全学的な教育プログラムおよび教育力向上に関する事業を行う「高等教育研究・開発センター」を設置した。

その事業の一環として、全学的な教育手法・教授内容の改善ならびにファカルティ・ディベロップメント (FD) およびスタッフ・ディベロップメント (SD) 推進に関する調査・研究・提案および運営支援を行っている。

<学生による授業改善アンケートの実施>

学生による授業改善アンケートは、毎年春学期と秋学期に全学部で実施し、その結果を、授業改善を促進するために教員へフィードバックしている。

また、各学部の実施報告書や各科目のアンケート結果に担当教員が学生向けコメントを付した別冊版、大学全体の統括的報告書の形にとりまとめ、学内で公開している。2015 年度は中間アンケートも実施。

大学院において、「教育・研究指導改善アンケート」を実施している。

シラバスの記載事項等の見直しなどを行い、内容の充実を図っている。

段階的に組織的なシラバスチェック体制の整備を行うことを決定・推進している。

また、2014 年度より専任教員における「教育・研究等活動に関する自己点検・評価」の実施を開始し、自己点検・評価委員会を中心に教育課程や教育内容・方法の改善を図っている。

2015 年度の「教育・研究指導改善アンケート」については、Web での回答方法に変更して行った。

<公開授業>

これまでは、全学部で学期毎に 1 ヶ月間に 1 人 1 科目の「公開授業」を、専任教員に対して実施していた。しかし、2015 年度は公開授業期間を 1 ヶ月から 2 週間に短縮し、原則として期間内全科目公開とし、より集中的に参観しやすい「公開授業」に改善した。

公開授業の実施状況および参観者アンケートは、Web 上の教職員専用ページで閲覧できるようにしている。

<全学 FD・SD フォーラム>

毎年 9 月に開催されている全学教員合同研修会内のプログラムとして、全学 FD・SD フォーラムを開催している。当フォーラムは、教職員の FD・SD への意識高揚を促すというコンセプトのもと、大学教育界のホットな話題についての高い知見を有する外部講師による基調講演とパネルディスカッションやワークショップを中心に構成されており、教職員

の研鑽の場となっている。

<全学 FD・SD 講習会>

毎年5月、新任専任教職員および希望する教職員を対象とした、本学のFD・SDへの取り組みの説明とFD・SDへの理解を促す講習会等を開催している。

<これらの他のFDに繋がる主な全学の方策および活動は以下のとおりである。>

- ・2013年度に学部のシラバスの見直しを行ったことに引き続き、2014年度には大学院のシラバスの見直しを行い、学部と同様とした。さらに、2015年度のシラバスより、各学部・研究科で組織的、定期的に検証していく仕組みを整備した。
- ・2014年度より専任教員の「教育・研究等活動に関する自己点検・評価」を実施している。各学部・研究科等では、その内容について学部・学科内平準化等を各学部・研究科の自己点検・評価委員会等で検討している。
- ・大学院全研究科で大学院生による「教育・研究指導評価アンケート」を実施している。
- ・学修以外の様々な課題を抱える学生に対応するスキルの向上を目指し、教職員を対象とした「大学における学生支援」研修会をカウンセリングセンター主催で開催している。
- ・全専任教員の過去5年間分の教育・研究業績を、毎年、大学ホームページで情報公表している。
- ・「関東学院大学教員データベース」の構築・公表について、2015年度より開始した。

<2016年度の活動予定>

- ・「全学教員研修会」内「全学FD・SDフォーラム」の開催（資料3）
- ・新任教職員および希望する教職員を対象とした「全学FD・SD講習会」の開催（資料4）
- ・高等教育セミナーの開催（全4回）（資料5）
 - *外国語教授法セミナー（入門編）
 - *高大接続を考えるー魅力ある大学に必要なSD活動とはー
 - *カリキュラムを“可視化”する方法
 - ーマップ・フローチャート・ナンバリング等の一体的理解へー
 - *大学を活性化させる学生のチカラ
 - ー学生の潜在能力と教職員との協働が、大学を変革させるー
- ・神奈川大学教育支援センター、横浜国立大学大学教育総合センターとの共催による「ヨコハマFDフォーラム'16」の開催